学校番号	3030

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	「ＭＯＵＳＡ２」（教育芸術社）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

音楽Ⅱでは音楽Ⅰで学んだ内容をさらに発展させ、幅広い表現を模索します。

合唱やギターに加え、音楽Ⅰでは取り扱わなかったイタリア歌曲やドイツ歌曲の歌唱、箏にも挑戦します。創作では音楽Ⅰで学んだコード理論を使って伴奏つきの曲を作曲します。創作活動を通して創意工夫しながら自己のイメージを表現する方法を学びましょう。幅広い音楽活動に主体的かつ協働的に取り組むことで、生涯を通して芸術に親しむための表現力を磨いてほしいと考えています。

2　学習の到達目標

幅広い音楽活動を通して音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することをめざす。

【知識及び技能】　曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】　自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫すること、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】　主体的・協働的に幅広い音楽活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、自己の音楽表現を粘り強く創意工夫する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。知識 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。技能	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながら良さや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	その題材の学習に粘り強く取り組み、扱う教材曲や曲種等の特徴に興味・関心を持ち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	イタリア歌曲、ドイツ歌曲の歌唱	【歌唱】 イタリア歌曲 「Nel cor più non mi sento」 「Vaga luna、che inargenti」 ドイツ歌曲 「Sehnsucht nach dem Frühling」 「Der Lindenbaum」	a:【知】曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、イタリア語とドイツ語の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している b:音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 c:曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	実技 テスト 振り返り シート	実技 テスト 振り返り シート	ワーク シート 実技テスト 振り返り シート 観察

前期	アルペジオ奏法によるギター弾き語り	【器楽】 課題曲より選択し、アルペジオ奏法でギターの弾き語りをする。	a:【知】アルペジオ奏法、曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。 【技】創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な奏法、曲にふさわしい発声、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。 b:音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて独自の表現意図をもっている。 c:アルペジオ奏法、曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果に関心をもち、主体的にアルペジオ弾き語りの学習活動に取り組もうとしている。	実技 テスト 振り返り シート	実技 テスト 振り返り シート	ワーク シート 実技テスト 振り返り シート 観察

前期	混声四部合唱	【歌唱】 「言葉にすれば」	a:【知】曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。 【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 b: 音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて独自の表現意図をもっている。 c: 曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	実技 テスト 振り返り シート	実技 テスト 振り返り シート	ワーク シート 実技 テスト 振り返り シート 観察

	箏	【器楽】【鑑賞】 「六段の調べ」のＤＶＤ鑑賞 箏の基本奏法を学び 「さくら」「六段の調べ（一段）」を演奏する	a【知】箏の歴史・文化的背景、調弦方法、構え方、箏譜の読譜、奏法について理解している。（器楽・鑑賞） 【技】箏の調弦方法、構え方、箏譜の読譜、奏法が身についている。（器楽） b:【思①】箏の音色と奏法の関わり、リズム、速度、旋律、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。（器楽） 【思②】箏の音色と奏法の関わり、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴いている。（鑑賞） c:箏の音色と奏法の関わりに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。（器楽・鑑賞）	振り返りシート	振り返りシート	ワークシート 振り返りシート 観察

前期	ペンタトニックを用いた作曲と伴奏付け	【創作】【鑑賞】 ペンタトニックスケールを使って旋律を作曲し、コード伴奏をつける	a:【知】ペンタトニックスケールやコード理論、記譜法について理解している。（創作・鑑賞） 【技】音階、コード、リズム、速度、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように作曲するかについて表現意図をもっている。（創作） b:【思①】音階、コード、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように作曲するかについて表現意図をもっている。（創作） 【思②】音階、コード、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わり、曲に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。（鑑賞） c：ペンタニックスケールとコードの特徴を生かして作曲することに関心をもち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。（創作・鑑賞）	発表 作品の楽譜 振り返りシート	発表 作品の楽譜 振り返りシート	ワークシート 発表 作品の楽譜 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度